



ひなどり

園だより 11月号
令和4年11月2日
新潟市立新津第三幼稚園

「作品をつくるということ」

園長 川合 千尋

豊かな感性や自分の感情を表現しようとする心は、幼児期に自然や人々など身近な環境と関わる中で、自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられると思います。第三幼稚園では、日常生活の中で出会う様々な事物や事象から感じ取るものやその時の気持ちを友達や教師と共有し、表現し合うことを通して、豊かな感性を養うようにしています。

園外保育で、大人がまず、自然物に心を動かし、感じたこと、気付いたこと表して子どもたちに伝えていきます。「風が涼しいね。」「雲がおもしろい形しているね。」そして、子どもの気付きにも共感していきます。「たくさんドングリを拾ってうれしいね。」「大きな葉っぱを見つけたね。」また、これまで体験したことを話し合い、共通したイメージを持たせるようにして、みんなで大きなものをつくります。このような体験を通して、子どもたちは、具体的なイメージを心の中に蓄積していきます。子どもが生き生きとこれらのイメージを広げたり、深めたりして、心の中に豊かに蓄積していくには、大人が、子どもが感じている心の動きを受け止め、共感することが大切ですね。

子どもたちが心を動かされる体験をすると、その感動を誰かにも伝えたくなくなります。その感動を相手と共有できることで感動が深まります。しかし、その感動が受け止められないと、次第に薄れてしまうことが多いと思います。感動体験が子どもの中にイメージとして積み重なっていき、表現されるためには、日常生活の中でみんなが感動を共有し、伝え合うことを十分に行えるようにすることも大切です。

